

3年次生がマレーシアの生徒と交流しました。

5月22日（月）午後、マレーシア・クアラルンプールにある公立中等教育学校SMK SERI HARTMAS から日本修学旅行生30名を受け入れ、3年次生（中3）160名と交流しました。下の文章は、寺田先生（3年次副主任・英語担当）が書いてくれました。

- 5限目はウェルカムセレモニーでした。校長先生とSMKの代表教員との挨拶＆記念品交換。中島校長先生はマレー語も交えて、英語で「おもてなし」のスピーチ。生徒たちもビックリしていました。
- そして双方の代表生徒による「英語での」挨拶そしてパワーポイントを使っの学校紹介。両国の生徒たち共に、他国の学校生活に興味津々で、スライドが変わるたびにあちこちで歓声や笑い声がわきあがりました。SMKの生徒たちは、まさに多民族。マレー人・中華系・中華系とオーストラリア人のハーフ、中華系とフランス人のハーフ、インド系などなど。普段学校では英語で過ごし、家ではそれぞれの親御さんのお国の言葉で話しているそうです。
- セレモニーの終わりに、マレーシアの生徒による伝統舞踊披露があり、エキゾチックな音楽に乗せて多民族国家マレーシアを感じる素敵なパフォーマンスに感動しきり。衣装もマレーシアの文化を感じる色彩の素敵なものでした。並木生は、英語の授業で練習してきたSMAPの「世界に一つだけの花」の合唱プレゼント。全員が心を込めて合唱でき、大きな拍手をいただきました。
- 6時限目は、各クラスにお迎えして書道と折り紙の交流を「英語で」挑戦しました。マレーシアの生徒の名前を漢字にあてはめて書いてあげたり、千代紙で様々な作品作りにチャレンジして、並木生もSMK生も盛り上がりは最高潮！！「もっともっと、たくさん交流していきたい！」「もっと英語を話したい！」と生徒たちの声がたくさん聞こえてきました。日頃学んだ英語が、実践で役立つことを体感するとともに、国際交流の真髄を感じた有意義な時間になりました。
- 放課後は男子は剣道部へ、女子は茶華道部にお邪魔させていただき、日本文化を体験。「心・技・体」を感じていただき、感動のうちにお別れの時間となりました。
- 本校では5年次でアジア方面に修学旅行に行きます。この体験が双方の若者たちにとって、将来に何らかの良い影響を与えてくれたら、と願った一日でした。

